『あなたを一人にはしない』(ヨハネの福音書 14 章 16～31 節) 2020.6.7.

＜はじめに＞ 先聖日にペンテコステ(聖霊降臨節)を迎えました。これはクリスマス(聖誕節)、イースター(復活節)と並ぶ教会の大切な節季です。これらはみな、歴史の事実の中に起源があります。

Ⅰ　ペンテコステの位置

①主イエスの十字架

神の御子が人(イエス)となってこの世に生まれ、30 歳ごろから公生涯に入られ、教えとしるしとしての奇蹟による伝道を約 3 年行われました。しかし、ユダヤ人はこのイエスを救い主として受け入れず、十字架につけて殺してしまいました。

②主イエスの復活

イエスの遺体は弟子に引き取られ、真新しい墓に葬られましたが、3 日後の週の初めの日の朝早くにイエスは甦られ、それから 40 日の間、度々弟子たちにご自身を現され、ご自身の復活を弟子たちに証しされて後、天に上られました。

③約束された聖霊の降臨

主イエスは、弟子たちにご自分の十字架と復活を予告され、またご自分のいなくなった後に「もうひとりの助け主」(16)が弟子たちに与えられると約束されました。この約束を待ち望んだ弟子たちに、主の昇天から 10 日後、約束どおり聖霊が弟子たちの上に下りました。

Ⅱ　助け主の約束

①去られる時が近い(19)

ヨハネ 13-16 章には十字架前夜、最後の晩餐の席上での主の言葉が綴られています。主を「見なくなる」時は迫っていました。目に見え、触れることのできる主イエスに頼り切っていた弟子たちは、そのことを告げられると困惑してしまいます(13:33,36、14:5)。

②孤児にはしない(18-19)

主は、弟子たちを捨て去るのではない、と断言されます。世は主を見なくなっても、弟子たちとは再会する、と言われます。復活後の顕現の予見です。そして、もうひとりの助け主なる「真理の御霊」(17)が彼らの内に住み、ともにおられ、その人に主を現されるからです。

③その日にわかる(20)

もう一人の助け主は、主イエスのことばとわざを思い起こさせて、主と父なる神が一つであることを示されます(10)。主と弟子の関係も内的なものへと変わります。「その日」とは定まった時期は限りません。これらを私たちが実感し、納得する「その日」です(16:23,26)。

Ⅲ　助け主の役割

①主を思い起こさせる(26)

助け主(パラクレートス)なる聖霊は主を信じるすべての者に与えられています(ロマ 8:9)。この方が私の傍らにいて(16)、主を指し示し(19)、すべてのことを教え、主のことばを思い起こさせます。御言がふと心に通い、主に思いを向けさせてくださいます。

②平安と喜びを与える(27-28)

ことばと人格は密接です。故人の語録にその人となりを探ることができます。主のことばを思い起こさせる聖霊は、私たちに主の思いと計画へと導かれます。それが分かると、私たちは平安と喜びに満たされます。

③内に住まわれる

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」(1:14)は、クリスマスの出来事と結び付けられて理解されていますが、聖霊が私たちの内に住まわれることによって実感されます。聖霊は、主を信じる者の内に主のことばが響かせ、そのことばに生きるよう促されます。

＜おわりに＞ 内に住まわれる聖霊によって、私たちは今も主を見、ともに生き、主のことばを受け取り、実現するのです。その時「私たちはこの方の栄光を見た」(1:14)と証します。聖霊は弱く乏しい私たちの傍らにいて、支え、励まし、助けてくださいます。(H.M.)